

2011年11月11日11時11分第11回総会

11月11日 佐賀県加部島を05時30分に出発、08:00福岡空港発羽田行きの航空機が20分ほど遅れての離陸、理事会開始時間10:30会場到着予定も途中モノレールのダイヤの乱れ等が重なって砂防会館別館3階会議室『立山』に着いたのは11時過ぎになっていた。

理事、監事、事務局の面々全員出席の中、審議承認は終了し、協議、その他、役員改選候補の確認の冒頭に藤原副会長より2011年11月11日11時11分第11回総会云々との切り出しの挨拶、この11の並びの記念のとき、すべてにイイ(良い好い善い佳い)ことへ繋げていきましょう。

『11が6つも並んだことを言いたかっただけです』

(藤原氏は総会の役員改選で本会の会長に選任されました。鳥羽磯辺漁業協同組合常務理事であり、永富三重県漁業協同組合連合会長との息もピッタリで、今回の大津波被災地支援には漁業関係で三重県と縁の深い宮城県の漁業者へ漁船四十数隻を集めて寄贈に貢献された方でもあります。)

妻のこと、別名甘夏かあちゃんは大津波災害、東京電力福島原子力発電の事故で翻弄されている福島県南相馬市の小倉さんと、ここ砂防会館別館で何年ぶりかの再会となり2~3時間の談話をしていた。

(小倉さんは熊本出身だそうで、関東地方で鮮魚関係のお仕事をされていましたが、福島県南相馬市に移住し、田舎レストランを始められていました。海側に近い所と聞いていたので大津波に呑み込まれたのではないかと心配していましたが、お店が高台にあったことから難をのがれることが出来たという。被災直後から田舎レストランのお店を避難場所に提供され避難者のお世話をされたと伺っています。しかし福島原子力発電所の事故の放射能で今は関東地方に身を寄せておられます。)

地下1階『ラブリコ』で昼食後、3階会議室『立山』で13時から第11回全国離島振興推進員連絡委員会総会、

講演 平野秀樹(東京財団研究員)【日本の島々が危ない 資源・インフラ価値の観点から】講演の内容から『日本の島々が危ない!!』外国の人から島や国土の山林等が買収されるのを防ぐ法の規制がなされないと、日本の国土を守ることは出来ないのではないかと痛切に思いました。

会務報告の後各県離島の推進員活動状況報告があり、推進員の根本活動は「離島振興は住民自らの手で」ということであり、推進員は常にリードしていかなければならないということですね。ただジイッとしていては何

も動きませんしね。『島の声が届ける』これも我々仲間の活動の一つになると思います。

新役員決定

私は2期8年間、(第5区佐賀県)理事を退任し、後任にレインボー7つの島連絡会議事務局長、高島の野崎 T さんを推薦しました。

佐賀県の離島はすべて唐津市にあってレインボー7つの島連絡会議、こちらでも設立 11 年になりますので、全国とレインボー7つの島連絡会議との橋渡しまでを繋いだことで一つの役割を果たすことになったのかなと思っています。佐賀県離島の推進員の面々も野崎 T さんとともに市や県、全国にも発信していけるようもう一歩前へ進みましょう。

全推連の今度の新役員の面々はかなり発言力も旺盛な方々で期待が持てますね。よろしくお願いします。

18時から懇親会『ラブリコ』全国から初めての方、懐かしい方など総勢四十数名の仲間が集まり愉快的時は瞬く間に過ぎていった。

11月12日離島交流・視察研修

本年は宮城県の離島、気仙沼市大島です。東北地方で太平洋側の有人離島は宮城県だけです。そのなかでも三陸海岸に含まれるのが大島です。

この度、3月11日に発生した東日本大震災、大津波によって気仙沼の石油基地の殆どが破壊されて、火の海と化した気仙沼湾岸の市街地は焼き尽くされてしまいました。特に宮城県は最多の犠牲者が出てしまいました。その日から丁度8ヶ月たちました。被災された皆様へのお見舞いと、犠牲になられました方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、早期の復興復旧がなされますようにと祈念いたします。

一行は、東京発07:56東北新幹線 **はやて** 213号盛岡行きに乗車、10:29一ノ関駅下車、貸切バスで一路 気仙沼へ、気仙沼市場横の高台にあるホテルで昼食、このホテルの根元付近までのすべてが津波に飲み込まれていて、このホテルが多くの避難者の救護にたいへん大きな役割を果たしたことが想像できる。

被災状況はすでにテレビ等で映し出された画面を終始ご覧になられたとおりなので特にここで取り上げないですが、広大な気仙沼魚市場から河川筋に延びる平地から奥地へと、市街地は全て津波にのみこまれている様を目の当たりにしまして、その爪あとの壮絶さ甚大さが焼き付けられました。インターネットの GoogleMap で東北太平洋岸を辿り拡大航空写真をご覧になるとその被害の大きさに圧倒されます。魚市場の規模からしても

この三陸海岸が日本の海洋資源の宝庫であり、大規模な漁業によって発展した町であることも良くわかりました。

福島原発被害からの復興には困難長期となり風評被害も大変お気の毒に思いますが、三陸漁業の復興は3年後ぐらいまでには再起できますよう前へ前へと進んでいってください。それとともに支援の輪も続けていかなければと思います。

どこからか聞こえました。今は失ったけれども太平洋には大きな海洋銀行があると、海は回復するのだから立ち上がり実働することだと。頑張り日本、頑張り東北。

13:30 フェリーで大島へ、4年毎に総会があり、そのときの1回は気仙沼の大島へも行きたいなどは常々に思い抱いていたところでしたが、まさか、この大震災大津波の被災地になってから行くことになるうとは。

歴史上から、この地球の仕組みから、いつかは繰り返されるという史実、現実には避けては通れませんが常々の津波に対しての避難体制、認識にはごらんの結果からとても残念にしか思えませんでした。

今回の訪問は被災後8ヶ月ほど経っており、被災者への励ましと、この教訓を各島々に生かしてもらおう研修になればと、夏の理事会で声が出まして、被災地気仙沼と大島の皆さんが被災後の困苦の中、忙しい中にも快く受入れに当たってくださいました。恐縮な思いもありましたが、大島の沢山の有志の方々に温かくお迎えをいただきましたこと、ほんとうにありがとうございました。2時間ほどの意見交換の時間も足りないくらいに、今回の大津波の教訓を沢山に頂きました。

最も危険なのが自分ひとりの**思い込み**、これくらいで大丈夫と動かなかったこと。そして、避難してしてから戻ったこと等が悔やまれますね。事が起こったら素直が一番、素早く避難行動をすることですよ。この大島では31人の方々が犠牲になりました。1パーセントではありましたが、その方々はここだったら大丈夫という思い込み、津波自体を経験されていないお嫁さん、逃げる方向の誤りによって犠牲になられたようです。また生き残った方の中でも避難生活に耐えられず命を絶つ人もあるので、これから厳しい冬がきます。支援の輪も滞っていくと、これから後の絶望の淵にいる人が犠牲者とならないように食い止めていかなければならないのだと話してくださいました。

「歴史上に語り継がれていた大島が三つに割れたという史実の津波の意味が、今回の大津波で大島が二つに割れたことを現実にこの目で見て体験したわけです。」と語られました。

19:00 から大島の方々との交流会が『休暇村気仙沼大島』でありました。お料理は心のこもった絶品料理、すべてがとても美味しかったです。それと大島の皆さんがとても明るく元気でいらしたので、全国から集まった50名近くの皆さんもご機嫌よろしく元気を頂きました。

大島に橋が架かっていない、架からないことが我々には七不思議のひとつでした。日本全体が豊かだった高度経済成長期、当然この大島の海は宝の宝庫でありたいへん豊かであったこともあってか、話を聞けば、架橋には島民の反対が著しくては橋が架かる由もありませんよね。佐賀県唐津市の神集島がそうでした。あの時代、架橋計画も出来ており、島民一丸の賛成があれば架かっていた橋でした。当時反対した人たちは今は橋を架ける、架けるとしきりに言っていますが、島のリゾート施設等も取り壊され、後の祭りで諦めの風潮になっています。そのまま諦めたらそのままですので、何かを見つけ作り出さないといけませんね。

成功の秘訣は何事も時代の流れを読み、保守的な思いと目先だけの欲得ではなくて、そのときのチャンスを見逃していかないことです。島をまとめる、引っ張っていく強いリーダーがいなくてこうなりますね。

こちら大島に橋がかかるとなれば東北地方で唯一の架橋となるわけですね。現在架橋の計画があると聞き、必ず実現していただき、もっともっと大島が発展しますようにと願っている一人です。私からのアドバイス、橋を活かす方向で今からしっかりと準備をしていくことです、遅れをとっては駄目ですよ。

11月13日の研修

08:50 大島をフェリーで出発、気仙沼の漁業復興を願い海産物をお買い上げ、秋刀魚を30尾ほど買って産直で自宅まで送った。(発送日より3日目に届き開封したところ、水氷もしっかりしており10尾ほど刺身にして、残りを丸塩して焼き秋刀魚にいただいた。鮮度の遜色は感じなかった。) 気仙沼を後にして、途中道の駅に立ち寄り一ノ関駅へ、ここで14名の方と別れて平泉の国宝金色堂のある中尊寺が世界遺産となって、紅葉の見ごろとも相まってか、人出も東京駅並みの大混雑になっていた。世界遺産ってすごいなあ、この人たちが三陸海岸の各地まで足を伸ばされて被災地の復興につなげてもらいたいなと思いました。一ノ関と気仙沼に明るい希望を見ました。昼食後、私たち福岡、佐賀組の6人は皆さんとわかれ、一ノ関駅から1便早い14:48 やまびこ60号東京行き、羽田空港19:30 発福岡行きでの帰路となった。

今年の総会、研修も 11 月 11~13 日は東北地方も 15 ~17 と暖かかった。その翌日からは一気に寒くなり積雪になったという。避難生活者には厳しすぎる冬ではなかろうかと心配である。とくに地球温暖化による近年の異常気象は激しい、これからの豪雪が心配だ。

事務局の皆さん、殊に三木さんには長年にわたり沢山のお世話を頂きましてありがとうございました。

吉崎博章前会長さんもお苦勞様でした。たいへんお世話になりました。そして皆さん今後ともよろしくお願いします。

佐伯眞登さん高松照佳さん梅田勝海さん渡辺庚二さん等、そして東京七島新聞社松本社長さん面々の皆さん大島での懇親会で盛り上がったように、いつまでもご壮健にて参加ができますように来年を楽しみにしております。

最後に、このたびの研修で特にお世話をさせていただきました地元推進員の福田まさ江さん、彰憲さん、本当にありがとうございました。あの犬大惨事にご無事でおられたことがなによりです。困難もありましょうが乗り越えていきましょう。

以上です。

2011 年 11 月 21~22 日 九州新幹線全線開通記念、第 10 回全国グリーン・ツーリズムネットワーク熊本阿蘇大会に全国より総勢 500 名以上が集まり 1 日目は阿蘇周辺地域の 8 つの会場に分かれての分科会、2 日目は高森温泉会館、高森町民体育館に集結して全体会合がありました。いい夫婦の日、夫婦で参加してきました。私は、山ばかりではなく海人もこれに参加してグリーン、ブルー・ツーリズムネットワークに発展できないものかと提案したいものです。もう大きな母体組織があるのだから、それに積極的に参加できる島民の皆さんが出てきてくれると嬉しいですね。

では皆さんお元気で、ごきげんよう、さようなら。

きよならは別れの言葉じゃなくて

再び逢えるまでのとおい約束です